

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
発行日 毎月 1 日
平成 29 年 12 月号

台風に負けず頑張ります！千葉県秋冬野菜販売出陣式開催

流通販売課 首都圏マーケティングセンター
副主査 大屋敷 亮輔

県産産秋冬野菜の本格出荷に先立ち、東京都中央卸売市場大田市場で「千葉県秋冬野菜販売出陣式」を開催しました。当日は、ちばの秋冬野菜応援隊（若手生産者、ちばの野菜伝道師の計 10 名で結成）による「台風被害にも負けない」という強い産地からのメッセージの他、だいこん、にんじん、ねぎ、さといもなど、旬の食材を使った試食を振る舞い、秋冬野菜の新鮮さや美味しさを多くの買参人に PR しました。

11月21日、千葉県、JA全農ちば、(公社)千葉県園芸協会、千葉県野菜園芸組合連合会、「ちばエコ農業」生産者協議会は、東京都中央卸売市場大田市場で「千葉県秋冬野菜販売出陣式」と銘打ったセールスプロモーションを開催しました。

開催日当日は、ぐっと冷え込んだこともあり、県産産秋冬野菜を使った2種類の温かいスープは飛ぶように売れ、会場は大いに賑わいました。



温かいスープは来場者に大人気でした

今年の秋冬野菜は、10月の台風21・22号の影響で大きな被害を受けましたが、産地の生産者の方々の技術と努力により回復に向かっており、当日の会場には、旬を迎えた多彩な青果物やちばエコ農産物が所狭しと並びました。

本県産秋冬野菜の宣伝のため、ちばの秋冬野菜応援隊として、ちばの野菜伝道師と県内各産地から8名の若手生産者の計10名が大集合。

出陣式では、全農ちば林会長、千葉県伊東部長に続き、若手生産者代表JAちばみどりの宮内さんが台風にも負けない産地、安全安心なエコ農産物を力強くPR。続いてテンポ良くちばの野菜伝道師の高原さんが本県産秋冬野菜の魅力を熱く語ってくれました。

会場の熱気が最高潮に達した頃、多くの買参人を前に、県園芸協会間瀬理事長の掛け声に合わせて、「エイエイオー」のときの声の三唱を応援に駆けつけた産地関係者の皆さんと共に行い、会場は一体感に包まれました。



みんなで力を合わせて「エイエイオー」
チーバくんも駆けつけてくれました

続いて東京荏原青果(株)の卸売場においても、本県産秋冬野菜の益々の御愛顧をお願いしました。

今後とも、より多くの消費者及び流通関係者に、本県農産物のファンになっていただけるよう、県、関係機関一体となって、一層PRに努めてまいります。

流通情報



美味しい「千葉の梨」を海外の食卓へ ～ 県産梨の輸出取組について ～

流通販売課 販売・輸出促進室
主査 小林 敏満

千葉県では、県産梨の海外輸出に向けて関係団体と共に、タイやマレーシアでのPRなどを通じ、輸出の定着・拡大を図っています。

1 県産梨の輸出状況

日本産の梨は、平成 28 年実績で約 8.1 億円、1,472 トン（※農林水産省情報より）で、そのうち約 94%に当たる 7.6 億円が香港（4.4 億円）、台湾（3.2 億円）向けです。残念ながら、この 2 地域へは、本県の梨は現在輸入規制により輸出できないため、県では梨の海外輸出に当たり、輸送距離の面でも相対的に近いタイ、マレーシアなどの東南アジア地域を中心に、輸出促進を図っています。

タイでは平成 24 年度、マレーシアでは翌 25 年度に森田知事のトップセールスを皮切りに梨の輸出がスタートし、平成 29 年においては、タイで 1,400 kg、マレーシアで 4,200 kg（※いずれも流通販売課調べ（29 年 10 月 20 日時点））の県産梨が輸出され、現地で開催される梨フェアを通じて販売されています。現地の消費者やバイヤーからは、千葉の梨は甘くてジューシーと、大変好評です。



タイでの平成 29 年千葉梨フェアの様子

2 梨輸出における課題など

タイやマレーシアでの県産梨の輸出では、5L～4L の豊水への需要が主であり、今後、大玉以外の規格や別の品種も含め、輸出量の拡大を図ることが望まれます。

また、競合する韓国産の新高梨等の出回り時期を考慮しながら、差別化を図ることが重要です。

差別化に必要な梨の品質維持につながる輸送対策において、現在梨の産地では、1-MCP 処理による鮮度保持技術を導入し、出荷しています。

なお、タイでは梨を含むいくつかの品目で、検疫制度の改正がなされる予定のため、こうした動向にも注視が必要です。



1-MCP 処理の様子

3 新たな梨輸出先候補国の紹介

これまでの取組を通じて梨の輸出が定着したタイ、マレーシアに加え、新たにベトナムへの梨の輸出が期待されています。同国への梨の輸出は平成 29 年 1 月に解禁されたばかりであり、経済成長が著しい同国への梨輸出に向けて、県にもこれまで複数のバイヤーから産地の紹介等が寄せられるなど、新たな販路先として期待されます。

なお、同国への梨の輸出は、生産する園地や選果こん包施設を登録し、所定の検査等を行うなど、独自のルールに対応することが必要です。

県としても、これまで定着した販路の拡大に加え、新たな販路の開拓支援にも取り組んでいきたいと考えています。



低コストで省力的な春夏どりニンジンのべたがけ栽培法

千葉県農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所
畑地利用研究室 上席研究員 高野 幸成

春夏どりニンジンのべたがけ栽培では、1月下旬からの播種で6月中旬以降に収穫でき、品種には根部形状が良好で抽台しにくい「翔彩」が適しています。トンネル栽培と比べて収穫時期は遅れるものの、被覆にかかる資材費と作業時間が削減できる低コストで省力的な栽培技術です。

1 はじめに

春夏どりニンジンでは、収益性の向上と規模拡大への対応を図るため、慣行のトンネル栽培に比べて低コストで省力的な栽培技術が望まれています。ここでは、新たに開発した技術として、トンネル被覆を省略し、不織布でニンジンに直接被覆するべたがけ栽培法を紹介します。

2 栽培法と適品種

べたがけ栽培では、トンネルの代わりに不織布で直接ニンジンに覆います。スーパーパスライトの上にパスライトブルー(いずれもユニチカ(株))を重ねる二重被覆では、1月下旬以降の播種で、6月中旬からの収穫が可能になります(図1)。スーパーパスライトのみの一重被覆では、2月下旬以降の播種で、7月上旬からの収穫となります。べたがけ資材の除去は、いずれの被覆方法や播種時期においても、慣行のトンネル除去と同時期に行います。除去が遅くなると抽台が発生しやすくなるので注意が必要です。なお、べたがけはトンネルに比べて保温力が劣るため、生育や収穫は遅れますが、播種時期が遅くなるほどその差は小さくなります。また、低温の影響を受けて、根部形状が長めになりやすく、抽台しやすくなります。このため、べたがけ栽培には根部形状が良好で抽台しにくい「翔彩」(株)フジイシード)が適しています(図2)。

3 資材費と作業時間

10a 当たりの被覆に要する資材費を試算すると、トンネル栽培の約 50,000 円に対して、べたがけ二重被覆では 30%減の約 35,000 円、一重被覆では 60%減の約 20,000 円となります。また、作業時間について生産者から聞き取り調査したところ、べたがけ栽培では資材の設置と片づけの作業時間が少なく、トンネル栽培で必要な換気作業を省略できるため、作業時間が約 70%削減されます(データ省略)。

4 おわりに

春夏どりニンジン産地において、本技術の導入によるコスト削減や省力化、慣行のトンネル栽培との組合せによる収穫期の分散等で規模拡大が進むことが期待されます。

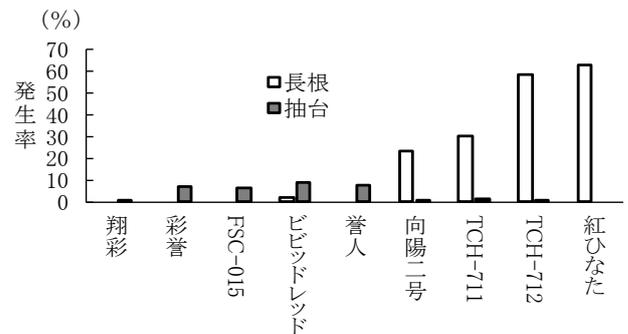


図2 べたがけ栽培における品種別の長根と抽台の発生率
注) 平成 27 年 2 月 24 日播種、7 月 2 日収穫の一重被覆
長根は現地の出荷基準(根径の4倍以上のもの)を目安に調査した

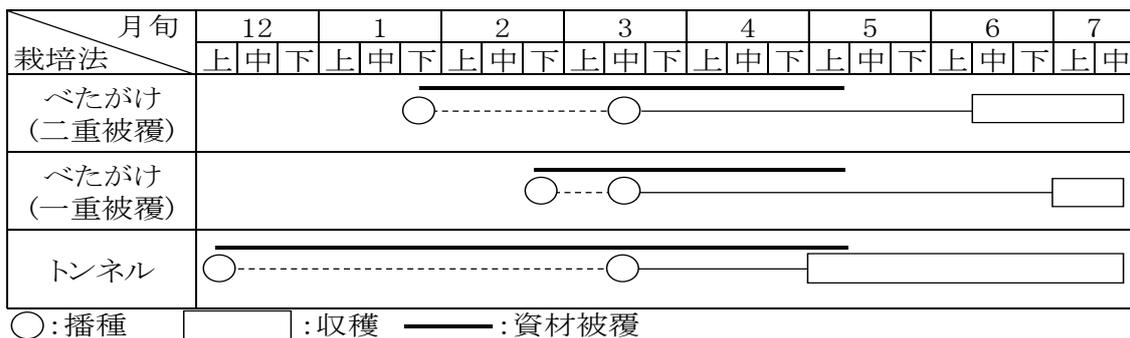


図1 べたがけ栽培とトンネル栽培の栽培暦

野菜ニュース



トマトでの産地連携における活動と 今後の取組方向について

公益社団法人 千葉県園芸協会
主査 金森 啓介

千葉県園芸協会では、県や全農千葉県本部、関係 J A 等をメンバーとしてトマト協議会を設置し、産地間連携によるオール千葉体制で生産力・販売力両面の強化に向け活動しています。今回は、現在までの取組や課題、今後の取組方向を紹介します。

1 現在までの取組について

本県のトマトは、ほぼ周年で生産されている主要品目であり、春（5～6月）と、秋（抑制期、9～11月）は、各産地からの出荷がピークを迎え、首都圏市場でのシェアが特に大きくなります。しかしながら、出荷量が年々減少しており、生産・販売上の課題解決が求められていました。

そこで、協議会で検討を進めた結果、生産対策としては「春時期の反収向上」と「抑制期の高温対策」を、販売対策としては「千葉県産としてのロットの集約」をそれぞれ重点的に取り組む課題と位置付け、対策に取り組みました。

「反収向上」では、今年度から環境モニタリング装置の導入試験を開始するなど、ICT 等を活用した環境制御技術に取り組みました。

「高温対策」では、遮光資材や循環扇、品種の検討など、各産地で様々な試験を実施し、情報共有を行いました。

「ロットの集約」では、各産地の規格や色等について、販売市場も含めた会議などにより統一を進めました。

2 残された課題や今後の取組方向について

生産面での、環境モニタリング装置を活用した試験については、今後、成果を取りまとめていきますが、管理の指標となる数値の設定や新

しい管理方法の紹介等により、県全体に波及効果が出るよう進めていきたいと考えています。

また、高温対策については、導入判断に経済性の検討も必要であることから、コストの検討や、より低コストで実施可能な技術の試験を追加するなど、現地への普及性を重視した取組を進めます。

販売面では、今までに等級呼称の統一や共通着色基準の設定などの成果が得られましたが、品質面での統一にまだ課題が残っており、今後も継続して取組を進めていく必要があります。

加えて、入数統一やモールド（緩衝剤）導入といった市場要望への対応については、対応に係る費用対効果を検討するとともに、市場と産地が直接対応を協議する機会をコーディネートしていきたいと考えています。



実証試験を行う環境モニタリング装置

農地耕作条件改善事業「上湯江地区」の概要について（事例紹介）

公益社団法人千葉県園芸協会
農地部（千葉県農地中間管理機構）

上湯江地区は、君津市の市街地の南方向に位置し、二級河川小糸川の支流である江川に近接し、平野部での中心的水田地帯となっています。水田から畑への農地造成を行うことで、農地中間管理機構による農地の集約化を図り、農業生産法人の誘致により、生食用トマトの大規模施設園芸の展開を行うとともに、労働の場の創出を図ります。

1 上湯江地区の概要について

君津市の農業は、二級河川小糸川・小櫃川流域下流が優良な穀倉地帯であることから、水稻を中心に生産されています。農業産出額は 84 億 8 千万円で、内訳は水稻が 18 億 7 千万円、野菜が 10 億 9 千万円、その他耕種 9 億 4 千万円、畜産 45 億 8 千万円となっており、野菜はレタス、キュウリ、ブロッコリー、イチゴ、ダイコンなどが生産されています。

また、特定の農産物を集中して作付する大規模な生産組合が少ないことや、市全体の大多数が小規模農家や高齢等の農業従事者であることから、担い手の確保が課題となっています。

上湯江地区は、二級河川小糸川の支流である江川に近接し、昭和 42 年から 43 年度に農業構造改善事業により、30 a 区画の水田に基盤整備されています。受益面積は 6.02ha（水田 5.97ha、畑 0.05ha）で、27 名の方により耕作が行われてきましたが、高齢化と後継者不在により離農を考えている方が多くいました。



上湯江地区の位置図

そこで君津市では、農業生産法人の誘致を行い、生食用トマトの大規模施設園芸の展開により、労働の場の創出を図ることとしました。

そして、農地耕作条件改善事業により、大規模施設園芸が行えるよう 1 区画の畑に農地造成し、農地中間管理事業を活用して農地所有適格法人「(株) 君津とまとガーデン」に農地を集積・集約化（転貸面積 48,364 m²）を図りました。

農地造成工事（A=6.02ha）は、他の公共工事（館山自動車道 4 車線化工事など）からの建設残土を活用し、事業費の節減を図っています。

その他、地区内の排水路の付け替え（L=1,100m）及び受益地全体で埋蔵文化財調査を実施しています。



農地造成工事の状況

2 「(株) 君津とまとガーデン」による大型施設栽培について

農地造成と並行して、別途強い農業づくり交付金事業により、栽培面積約 4 ha 規模の大型施設を建設していきます。

・大型施設の概要

仕様	オランダ型温室（4.7ha） 選果施設等の付帯設備
栽培品目	ぜいたくトマト
生産目標	1,100 t / 年
雇用計画	社員・パート合計 40～50 名 （8 時間換算）

栽培施設の高度化と栽培管理の強化により、生産性の高い長期長段取り栽培を実施することにより、反収を現状の 1.52 倍に増加させ、品種改良により開発した生食用トマト品種「ぜいたくトマト」を、一般家庭向けに首都圏の百貨店、スーパー等で販売する計画です。

3 今後の展開について

農地造成工事は今年度完了し、その後、施設工事が平成 30 年度に完了、平成 31 年 4 月から栽培を開始する計画です。

栽培に当たり、農地耕作条件改善事業により、高収益性作物導入支援として、導入 1 年目の種子、肥料など営農に必要な支援を行っていく予定です。

第 38 回千葉県フラワーフェスティバル開催案内

年に一度の“ちばの花の祭典“が開催されます。会場には千葉県産の切花、鉢花、観葉植物、洋らんが展示されます。ひと足早い春の訪れをお楽しみください。

- 会 期 平成 30 年 1 月 6 日 (土) ~ 8 日 (月・祝)
- 会 場 そごう・西武そごう千葉店 6 階催事場
(JR、京成、千葉モノレール「千葉駅」から徒歩約 1 分)
- 内 容 花の品評会 (出品点数約 580 点 (予定))
各種団体による花のディスプレイ
花の教室
フラワーアレンジデモンストレーション
花の即売会 など
- 問合せ先 千葉県農林水産部生産振興課
電話 043-223-2871



第 37 回 ディスプレイ

第 45 回千葉県植木共進会開催結果

千葉県農林水産部生産振興課

生産者の技術向上と消費者の植木類に対する認識を深めてもらうことを目的に、去る 10 月 27 日~29 日、東金市の (株) 東金植木流通センターで第 45 回千葉県植木共進会が開催されました。144 点が出品され、高い植木生産技術を競い合いました。

特別賞入賞者

賞 名	所属組合	部 門	樹 種	受賞者氏名
農林水産大臣賞	東 金	造形	マキ	宮山 太一
千葉県知事賞	東 金	造形	天目松	松崎 善一
千葉県議会議長賞	個 人	特殊樹	ジャクナゲ	青木 敏雄
東金市長賞	東 金	造形	赤松	中村 孝
千葉県山武農業事務所長賞	東 金	造形	マキ	中村 孝
千葉県造園建設業協同組合理事長賞	創 樹	特殊樹	モミジ	大宮 新悟
公益社団法人千葉県園芸協会長賞	千 葉	規格物鉢物	シュロ竹	石井 清美
千葉県農業協同組合中央会長賞	千 葉	規格物鉢物	ゴールドライター	石井 清美
東金市議会議長賞	創 樹	規格物鉢物	ベッコウマサキ	大宮 新悟
全国農業協同組合連合会千葉県本部運営委員会会長賞	千 葉	規格物鉢物	エレガンテシマ	長崎 幹雄
山武郡市農業協同組長賞	東 金	特殊樹	ソテツ	中村 孝
一般社団法人千葉県農業会議会長賞	創 樹	規格物鉢物	温州みかん	大宮 新悟
公益社団法人千葉県観光物産協会長賞	匠 瑳	特殊樹	アカシアブリスベン	嶋田 真大
千葉県農林総合研究センター長賞	八 街	規格物鉢物	ゴールドデンモップ	三須 清貴
一般社団法人千葉県造園緑化協会長賞	匠 瑳	規格物鉢物	シマトネリコ	嶋田 真大
千葉県 JA バンク運営協議会議長賞	匠 瑳	規格物鉢物	エレガンテシマ	伊藤 清
千葉県植木生産組合連合会長賞	創 樹	特殊樹	ソヨゴ	鈴木 隼人